



明治中期の留萌市街風景

留萌市史……………その③

苦心した市街地づくり

の正覚寺に置いてありましたが、委員会は医師の長尾甲斉氏、事務員は度々変わったが、藤田隆造、元戸長をした伊山徳次郎などが居りました。

土地の抽選は明治二十三年から二十七年までかかりました。等級は一等から五等までで、一分七間半の二十五間です。

一等十二間から五等四間までこれは道路開きと費として寄附する定めでしたが、誰も寄附せず終ってしまいました。

一等地はそのころ、旧留萌川堤防に接した所でした。

また、今の副港のある所は、浮島とでもいうか、縁に立つとぶくぶく沈んで、気持の悪い所でした。

多分、泥炭地で底を河が流れていたであろうと思います。

古丹の方も小流であったが、土地を分割してから切替ができて、いつの間にか平坦になった。

とにかく今考えると、随分大きな計画を立てたものです。以上菊地翁の話の中にもあるように、市街地計画については幾度か願書を提出していたのであるが、許可にならず、有志の焦りは一通りではなかった。

留萌村有志の志願は達成されなかったが、留萌の場所請負人であった和歌山県の栖原家の十一代栖原角兵衛が、留萌新市街地計画に賛同し、留萌、礼受、三泊の三カ村の共有資金として、畑地一万五千三坪（価格三千六十銭）の寄附願出をした。

これは明治二十四年九月二日のことである。ここ数年の宿望が達成される

見込みがついた。同年十月三十日付で新市街開きに関する事、長官の許可書を手にすることができた。

明治十八年からの長い間待望し達成をまつた留萌村は、長尾甲斉を委員長とする「留萌新市街地開き組合」を結成してその実行にとりかかった。

土地の配当は主として地区別に抽せん法によったが、その後は組合事務所の承認を得て、貸出願の手続きを経て「貸出許可人名簿」に記入すれば配当されることになった。

こうして、一個人の宅地としては、一戸一区主義によって、官用地または共有地を除く外は、先に菊地翁が語ったように、七間半に二十五間、百八十七坪五合とした

しかし、中には一万二千余坪（六十七戸分）を一区割として配当を受けようとした者もあったが、これは「多数ノ望ヲ充タシムル

趣旨ヲ以テ成立シタル市街予定ナリ」という理由によって却下された。

つぎに市街地を区割整理すると当然起きてくる道路、排水溝、架橋などの問題である。

道路の幅は八間、十間、十一間というように所によって一様でなかった。

溝渠は上幅六尺、敷幅四尺、深さ四尺という状態であった。

また、道路、排水溝などを構築する費用については、菊地翁の談話にあったように、配当を受ける土地の等級によって決定された寄付金を支出する形式になっていたが、しかし誰も寄附金を出さなかったため、構築費用は補助金によらなければならなかった。

ようやく、留萌新市街地計画の大事業も有志の努力によって終了を見、最後に市街地町名の命名書を道庁に提出し「留萌市街地開き事務所」は閉鎖した。

《市街地の造成》

留萌の市街地計画は、明治十八年ごろから地元有志の間で論議されていたが、この計画で、実際の測量などにあたる菊地嘉代吉（故人）の談話を参考としてつぎに載せる。

「以前、郡書記をしていた中城長直さんと二人で始めました。


中城さんは企画もし、願書も書き、手続きなどにも種々骨を折るという具合で、この人が主となってやってくれました。

道庁から市街の略図をつけて願出せよとのことでありましたが、足踏で測量して、願書を三、四回出したが、時期尚早とかの理由でその都度却下されました。

そのうち明治二十一年、郡長の

出札を機に長官に陳情してもらった。「そんなに地元民が熱望しているなら、君に一任する。」との長官の言葉に力を得て、いよいよ実施に移ったのです。普通貸下法では、一カ年が成功期間となつていますが、留萌市街は三カ年の期間ということになりました。しかし、事実は十カ年かかりました。家屋は掘立柱に屋根はガン皮でふいてもよいということになっていましたが、その内に道庁から若い役人渡辺勇氏がきて、大変やかましくなりました。測量は大きい割に檜葉木のような灌木で、今のように入障害物があったので楽にできました。市街開き事務所は旧市街時代

郵便貯金（ジャンボ貯金）で
すばらしい海外旅行へ
— 会員募集中 —



○ 預けに になった定額貯金の元金は手
つかず、利息だけで海外旅行が楽し
められます。

○ 郵政局、日本交通公社、日本航空が
提携しており、費用も大変安いです。
気軽な短期間であなただけの夢を
お楽しみコースへあなたもどうぞ

コース	期間	費用
Aコース 香港・マカオ	4日間	124,000円
Bコース ハワイ	6日間	173,000円
Cコース ヨーロッパ	12日間	355,000円
Dコース グアム	4日間	95,000円

お申込、お問合せは
留萌郵便局貯金課 TEL 2-0590
又は区内各無集配局へ